

SPARC Japan 第 5 期（平成 28～30 年度）の基本方針（案）について

1. 第 5 期（平成 28～30 年度）の基本方針（案）

第 5 期においても、第 4 期の活動を継承し、国内外の OA イニシアティブや関係組織と連携し、オープンアクセス等を推進し、学術情報流通の更なる発展に取り組むことを基本方針とする。

特に米国 SPARC と連携し、日本のオープンアクセス活動を国際的に発信する。オープンアクセス等の推進にあたっては、まずその課題を把握することに努めると共に、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に関りボジトリ推進委員会および大学図書館コンソーシアム連合等との協調を一層強化し、学術情報流通の発展に向けて参加意識を強める方向でアドボカシー活動を継続的に行っていく。

2. 第 4 期から第 5 期に引き継がれる課題

第 4 期では、国際連携とアドボカシーについて、継続的な活動として評価できる成果をあげてきた一方で、オープンサイエンスのような新しい動きへの迅速な対応といった課題が顕在化したと言える。このことを踏まえて、第 5 期では以下の諸課題について対応していく。

①国際的な OA イニシアティブとの協調

国際イニシアティブに参画し、日本の窓口としての役割を果たすとともに、その活動・成果のアピールに努める。これらも含めて、国際的な動向を注視し、必要な対応を行う。

②学術情報流通にかかわるアドボカシー活動

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」等の組織と連携しつつ、オープンアクセスやオープンサイエンス、学協会出版の国際流通に係るアドボカシー活動を継続して実施する。

③オープンサイエンスへの活動スコープの拡大

研究成果のオープンアクセス、イノベーションの基盤となる可能性を秘めたオープンデータ、加えて高等教育の基本的構成要素の再考を迫るオープンエデュケーションなどへの関心の高まりにあわせて、理工学分野だけではなく、人文科学・社会科学分野の動向等に関して適時の情報提供を実現する。また、大学図書館におけるオープンサイエンスの取組み、研究データの管理等への関与について、戦略的な検討を行う。

④オープンアクセスに関する基礎的情報の把握

第4期に引き続き、オープンに関する基礎的情報を把握するために実態調査等を行う。各大学・研究機関の研究戦略を考える上で、データを集め分析するために、図書館が一定の役割を果たすことも検討する。

⑤SPARC Japan 事業組織体制の見直し

継続的な活動に加えて、新しい動きへの迅速な対応等を考慮し、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」等の組織との一層の連携強化や既存組織の統合等も含めて事業組織体制の見直しを行う。